

アマダイ通信 NO.87b

(Tile fish network letter)

2012年 元旦

知人・友人各位

明けましておめでとうございます！先月末で65歳になり、JRから全国一律三割引きの大人の休日クラブの入会案内が届く。百円で区内と近隣の温浴施設を利用できる入浴券も送られて来る。介護保険証も届く。65歳は老境なのだと意識させられるが、これらの制度の世話を余りならず、生涯現役で税金も払い、他人の役に立てると嬉しい。少子高齢化・労働力減で日本の将来は大変だというのが、一律に年寄扱いするのではなく、元気な年寄をもっと働かせる工夫が必要ではないか？今年も宜しくお願い致します！

◎震災で「水の流れ」変わる！

東日本大震災時、首都圏で大量の帰宅難民が発生、無理やり帰宅するのではなく、免震や耐震構造で地震に強い建物に「籠城」、併せて災害対策の拠点とする方向に流れが変わる。数日から1週間「籠城」するためには食料、水、電気、トイレをどう確保するかが大問題。食糧は乾パンや即席麺を貯蔵、電気は自家発電機を用意、燃料の軽油を蓄えておけばいい。神戸の震災でも電気は比較的短期間に復旧したが水道は3か月かかった。直下型地震では首都の5~8割が断水すると言う。水はペットボトルを用意するとしても膨大な量になり、置くスペースに困る。一番有効なのは常時流れている、豊富な地下水を利用することだ。日本が「世界の工場」として地下水を大量に汲み上げた時代、特に太平洋岸の工業地帯で地盤が沈下、地下水汲上げが規制された。ところが水を大量に必要とする工場が海外に移転したり、水の再利用が進み地下水位は劇的に上昇（東大病院の古井戸の場合で地表から最深60mが現在30m）、地下水脈の上に浮かぶ船の如き東京駅や上野駅は浮上するのを抑えるため、何回もアンカー工事を行った。この豊富な地下水を汲上げ、日本が得意とする膜ろ過の技術でろ過すればいい。井戸は地震の時も地盤と一緒に上下するだけで、水道の管路と違い寸断されず安心だ

が手伝う、民営化した電源開発(株)の新規事業、井水利用専用水道システムのユーザーは大学や大病院、駅ビル、ショッピングモールなどが中心だが、大きく広がりつつある。「震災対応」を旗印に、震災後の選挙で選ばれた保坂世田谷区長は、震災時に働く区の職員2千4百人のために、区役所に災害用井戸を掘り、浄水設備を設置する方針を打ち上げた。区民のための最低限の賢明な策だ。ところが地下水過剰汲上げ時代の規制をそのまま残す都条例では、新規の井戸掘りは原則禁止。日量150(年間5万)立米汲上げ可能な径1インチの井戸を震災用に掘り、一日十立米まで汲上げられるとするが、短時間の稼働では濾過設備にバクテリアが発生し目詰まり、いざという時に使い物にならない。

震災対策の一線で働く区の職員はいいとして、2百万世田谷区民はどうするか？取り敢えず都は学校や公共施設の地下に2キロ毎に大貯水槽を作る方針を出しているが、溜り水は腐る。しかも震災の瓦礫の山を越えてバケツを担ぎ2キロも歩け！というのか？大枚の工事費がかかる大貯水槽を造るよりも、湾岸に密集した工場群が工業用水を大量に汲上げ

地盤沈下した水不足時代の時代錯誤な都条例を改正、地下水利用規制を緩和するだけで、電源開発を始めとした専用水道事業者が、大学や病院、駅ビル、ホテル、デパートやショッピングセンター、大型複合ビル、高速道路のサービスエリア、空港や公共施設など、震災時には避難場所とも対策拠点ともなる大口ユーザーのために、事業者の負担ゼロで競って井戸を掘り、浄水設備を設置、従量制料金で水を供給、水道インフラを二重にしてセキュリティを高めた上で、水道料金も大幅に削減する。4、5年前の協力の第一号となった藤田観光の目白の椿山荘では電源開発の専用水道システムが順調に働き、毎年1千万円水道料を節約している。規制緩和だ！と国に対して威勢のいい石原都政だが、先ず“脚下”から始めて欲しい。

◎尻馬に乗り夢を広げる

大型ビルやショッピングモールへの専用水道の導入となれば、日本一の大家である三菱地所や、三井不動産にも提案したい！東大三鷹寮先輩の伴元建設事務次官に趣旨を説明、両社のトップを紹介して頂く。取敢えず三菱地所の東静岡ショッピングモールで井戸を掘り始める。大手町・丸の内・有楽町地区再開発では井水利用専用水道システムと東京駅や地下鉄の湧水の地域冷暖房やトイレなどへの中水利用を提案。震災時帰宅難民対策が耐震高層ビル「籠城」へと流れが変わり、俄然水確保が重要になる。三井不動産にも倉敷のチボリ公園跡のアウトレットモールで検討して貰うが、水使用量が少なく経済的メリットが少ないので見送り、木更津のアウトレットモールと、ららぽーとに提案させて頂く。更に野村不動産トップも紹介して頂き、相模大野の商業、オフィス、住宅の複合再開発でも導入を提案、能代高校同期の小野寺住友不動産社長にも提案する。電源開発が井戸を掘り、浄水設備を設置、ユーザーの負担なしで、水道の経費を削減、水インフラの二重化で地域のセキュリティも向上させる。ユーザーメリットも社会的意義も大きい。

震災時に駅のシャッターを閉め不評だった JR 東日本も駅舎開放に方針転換、東京駅の湧水を駅の空調やトイレ等の中水に使いセキュリティを高めるといふ。新宿の JR のビル群や恵比寿等、地下鉄との乗換駅では空調やトイレの水にメトロの湧水を使うことも提案したい。京都駅ビルでは飲用水用で大きな経費削減の効果があったので、トイレ等の中水用の井戸も掘り年間7千万円水道料を削減した。斬新なデザインの大阪駅ビルが新しくオープン、大銀傘で集めた雨水と再生水だけでは中水が不足、高い水道水を使っているので先ず井水の中水利用を提案。更にアンモニア性窒素が多く、飲用不適の梅田(古称埋田)の水を、最新の RO 膜を使い純水レベルまで浄化した場合のコスト計算もすることに。京都駅ビルと同規模なので、年間数千万円経費を削減し、水道インフラの二重化で地域のセキュリティも高まる。の提案に新駅ビルの建築営業でも御世話になった大阪ターミナルビルの池田社長もニコリ。その足で竹中工務店本店へ。大阪駅北ヤードの再開発でも巨大ビル4棟の建設が進み、竹中工務店も施工者兼施主なので、難波常務に同様の提案をする。

三井不動産では中国で進めるスマートシティ造りへの協力を求められる。資本の過半を握って主導出来ない中国での商売に尻込みする電源開発の尻を叩き、日本のデベロッパが中国各地で進めようとする街造りで、中共中央まで繋がる「緑の地球ネットワーク」の高見君の人脈を活用、電源開発と一緒にその尻馬に乗って、不足する電気と水のインフラ造りに協力、併せて GEN の運動も発展させられれば嬉しい等と、妄想を逞しくする。

◎故郷の為にマルチに

11月20日の日曜日の昼、市ヶ谷の私学会館に在京の八峰町出身者が二百人ほど集り、故郷会。八森中学の同期生も10人参加、一卓を囲み、同期会を兼ね二次会まで盛り上がる。(社)東京生薬協会の小平にある東京都薬用植物園の事業管理委員長をする加賀(株)龍角散取締役が、故郷八森は生薬の宝庫だと、一石二鳥の生薬による町興しを考えている様子。生薬を栽培、グリーンショップで売って貰うと同時に、全国の公園にも植えて貰うプロジェクトを生薬協会が進めているとの由。

子供の頃、お腹の調子が悪いと苦いせんぶりのお茶を飲まされ、打ち身にはキハダの皮の粉末を練り込んだ小麦粉を塗らされた。インニョサクをトイレに放り込むとウジがわかなかった。強力な殺菌効果。肉厚の薄荷の香りの強いスカンポ(イタドリ)のような感じで、白神の山に分け入り、他の子供達は皮を剥いておやつ代わりに食べていた。🍄だけはかぶれて、痒いと引っ掻いては顔を腫らせ、春が来る度、肌が弱く腫れるのを解っていてどうして他の子と一緒に山に入るのかと、親に怒られた。生薬のプロの加賀君が興奮気味に話すのを聞いて、幼い頃を思い出す。加賀君を手伝える日が来ると嬉しい。

その後、加藤町長の上京に合わせ一緒に、JR 東日本事業創造本部の地域活性化部門へ。e-cute(駅中路線)仕掛人の鎌田部長に一年振りに会い、故郷産品を売り込み、助言を仰ぐ。上野駅に今春新設の地域物産販売スペースで10月に秋田県フェアがあるとのことで、早手を上げることに。併せて東京駅丸ノ内南口の地域物産販売店ニッコリーナの社長に、「白神の塩」と塩麴に白神酵母、乳酸菌の入った万能調味料「もろみ」のサンプルを渡し、推薦して貰うことに。終わって町長と食事、龍角散の加賀取締役も合流、貴重な白神の植物と生薬、廃校を活用した町興しの話で町長と三人で盛り上がる。取り敢えず今年、生薬協会のリサーチツアーを故郷に送ろうということに。

故郷は風力発電の適地ということで、加藤町長に顧問先の電源開発に会って頂いたりしたが、風力発電に適した送電線がないのがネックだという。その問題を解決、電源開発の風力発電所を造るのが先か？それともウッドプラスチックの工場を作るのが先か？塩やもろみの販売が先か？生薬が先に芽を出すか？秋田新幹線こまちの車内やJR 東日本のキヨスクで「白神の天然水」を年間3百万本売って貰っているのに次ぐ成果となるか？かつてその貧しさに涙し、革命を志した青春の原点、故郷の為にマルチに頑張りたい！

◎ノーベル平和賞ものだ！

10月末、三鷹寮同期のNPO法人緑の地球ネットワーク(GEN)高見事務局長が、昼の講演で上京したのに合わせ、S41~43年入寮合同同期会を30人余の参加で開催、夜も高見君に「後姿の北京」という題で、内陸の大同から見た中国の現況を30分ほど話して貰う。

元文化庁次長でその道に詳しい1年後輩の伊勢呂君が、マータイさんはケニアで木を植えてノーベル平和賞を貰ったが、高見さんも大同の黄土高原緑化と貧困克服で、マータイさんに劣らない成果を上げているのに、中国がフィールドではノーベル賞を貰えないよねと、しみじみ。高見君の尻馬に乗って霞が関を駆け回り、郵貯のボランティア預金や農水省の緑の羽根、外務省や環境省の草の根協力資金等の資金集めを手伝ったが、GENの運動への内外、取分け中国での高い評価は嬉しい。日本より中国の方が有名だが、欧米と中国の微妙な関係を越えて、中国での日本人の活躍が評価されるのは素晴らしい。

1月28日(土)東大農学部の弥生講堂で GEN の 20 周年記念シンポジウムとパーティーが開かれるので、案内を同封します。奮ってご参加下さい！又、3月末には北京でも記念行事を計画しています。大同まで久しぶり足を伸ばし、急速に開発が進むディープチャイナの変貌を見たいと思います。皆さんも一緒に如何ですか？



のフィンランド紀行(1)・・・近ツリ「フィンランド満喫6日間」2011. 8. 9～

① プレフィンランドツアー

近ツリから最終案内が届く。4日目の12日午後から13日夕方のフライト前の集合まで自由行動。この時に寮で2年後輩の丸山大使と大使公邸で会食出来ると嬉しい！丸山君と同期で、夫妻で同行する勝部君に連絡役をお願いする。ツアーはいい勉強の機会だ。書店で「物語フィンランドの歴史」を探すが、未出版のようで、「物語北欧の歴史」を買う。図書館で「地球の歩き方フィンランド」を借りようと思うがない、るるぶ版もない。図書館で「フィンランド・豊かさのメソッド」(堀内都喜子、集英社新書)と「フィンランドを知るための44章」(百瀬宏、石野裕子編、明石書店)を借りる。後者は多少当り外れがあるが、それぞれの国の歴史や文化、政治、経済などを総合的に、手短かに理解するには便利なシリーズだ。これに「物語〇〇の歴史」(中公新書)、「旅名人シリーズ〇〇」(日経BP)があればより理解が深まる。

知人の紹介でミサワホームのフィンランド駐在員が来社。森と湖の国で木材産業が盛ん、関連産業からノキアのような最先端のグローバル企業も派生するが、も参画するベンチャービジネス、ウッドプラスチックの類の産業はないと言う。技術立国を目指すフィンランドだが、木材資源が豊富で木屑を利用する必要がないのか？木材産業が盛んならウッドプラスチック原料の木屑も大量発生する。フィンランドでもバイオマスプラスチックに再利用できる筈。世界中で木材を有効利用、化石資源由来のプラスチック製品に代替、化石資源使用と炭酸ガス排出を抑制、地球温暖化も防ぐ、木材産業の「世界革命」を！

② 森林から情報通信へ、そしてノキアの失速

森の中の雨のヘルシンキ空港着。外気温15度。お陽様が顔を出すとそれなりの暑さ。ムーミン谷のタンペレまで森の中のハイウェイを2時間半のバス旅。日本から北海道を取った程のフィンランドの国土面積の四分の三は森林。80年代までの主要産業は紙パルプ・木製品等。輸出に占める関連製品の割合は1920年代には8～9割、1960年代には7割、90年には4割、最近は2割。1990年代以降、バブル経済が崩壊、最大の貿易相手国ソ連も消滅(1991年末)。輸出総額に占める旧ソ連のシェアは80年代の4分の1から92年には3%にまで急落。90年～93年の3年間にGDPが11%減少、失業率は3.2%から16.3%に急騰、一時20%超の危機的状況に。

1990年にイノベーション立国を国家戦略に掲げ、93年末には「創造的社会に向けての戦略」をまとめ、産業クラスター戦略を打ち出す。「葡萄の房」の様に企業・研究機関・官庁等、産学官を有機的に繋げ、国際競争力のある産業を地域的に集積する形態を目指し、IT等に集中投資、森林産業からの見事な産業構造の転換を実現。530万人と北海道より人口が少ない国に、世界一の携帯電話メーカー、ノキアが育つ。

ノキアはフィンランド最大の企業で 2003 年の GDP の 4%、研究開発費の 45%、輸出の 25%、製造業雇用の 5%を占める。1865 年に材木、ゴム靴、ケーブル等の製造を目的に創業され、最近まで世界一の携帯電話会社の名を欲しいままにしたが、アップルが iPhone を市場に投入、Google が携帯電話の基本ソフト、アンドロイドを公開、スマートフォンがシェアを広げる。スマートフォンの開発に出遅れたノキアは、携帯電話市場でのシェアを下げサムスンに次ぐ 3 位に後退、赤字に転落。急遽マイクロソフトと提携、マイクロソフトの新しい基本ソフト搭載のスマートフォンで巻き返しを計ろうとするが挽回は可能か？ノキアの、フィンランド経済の次なる変身は可能か？教育、医療、年金等の高度な福祉の源泉である IT を中心とした産業の競争力が失われた時、その維持は可能か？興味が募る。

② 高い税金にも満足。「安心」を買う！

夏の北欧の 15 度には冬の台湾の 12 度ほどの驚きはない。背中ザックからジージャンを出し重ね着。台湾と違いバスには暖房がある。ひたすら緑の林の中を走り、ガソリンスタンド、レストラン、ミニスーパー併設の大きなドライブインで一度トイレ休憩。23%の消費税が付き、物価は高い。震災復興の財源をどうするか？20%超のヨーロッパ諸国に比べれば、現在 5%、上げても 10%という日本の消費税は高くはない。上げればその分消費が抑えられ経済が失速するというが、同じ金額が目的を変えて復興のために使われれば、消費という点ではイーブンだ。おまけに増税前の駆け込み需要や貯蓄に回る分が復興に使われるのであれば、その分経済を活性化する。問題は増税ただけのものが復興のために、国民のために有効に使われるか？国家の意志と能力に対する信頼の問題だ。社会保険料も入れた日本国民の租税負担率は 30%ほど、先進国ではアメリカに次いで低いが、50%超の北欧以上に税に対する不満が強い。

アメリカと違って医療保険が機能し、医療に国民はそこそこ満足しているが、子育て、教育、介護、高齢者福祉に金が回らず、個人の責めに帰する部分が多いので不満が強い。保育園が不足し働きたくとも働けない。働けても子育て世代の親の負担は大変だ。介護や老後の年金が不十分で貯蓄に励まなくてはいけない。フィンランドのように保育や教育は社会の責任で無料、高齢者の介護や生活は国が面倒をみるなら、三千万円貯めてリタイアしてもまだ不安、結局貯め込んだお金も使えずに死んでしまうより、国を信じて 2 千 5 百万円先払い、銀行ではなく国庫に貯蓄、万が一の 5 百万円の貯金だけで、悠々自適、安心の老後を送るかの違い、政府を信用出来るか？自分が信頼に足る政治家を選んだかの違いだ。フィンランドの選挙は比例代表制で小党が分立、政策調整の上で連立政権が生まれ、話合いの政治が機能している。民主政治が成熟、保守政権でも、革新が政治を主導しても大枠は変わらないという、国家の大方針への信頼もある。国民は税という形で高度の福祉の対価を払い、子育て、教育、医療、雇用、介護、老後の安心の社会化という、最高のサービスを買っている。郵貯や簡保資金による財政投融资制度は廃止されたが、銀行や郵便局、保険会社が集めた国民の貯蓄で国債を買う形で、国民の国家への信頼はかろうじて残る。政治の成熟、国家の安定した大方針の形成が待たれる。

時差 6 時間の夕方 6 時半、日本では真夜中の 12 時半にタンペレのホテル着。バスタブなしで物足りないがシャワーをすませ、持参のツマミで日本酒を寝酒。持参のポットで湯を沸かし、ミニカップ麺で空腹を癒し、現地時間 8 時位にベッドに潜り込む。

④ウォシュレット？！

森と湖の国らしく水道水は直接飲めて、床は木張り。トイレに蛇腹の水栓。手動式ウォシュレットだと勇んでレバーを押すが、水は噴射しない。蛇腹は洗面器の下から伸び、洗面器の水を流し放しでレバーを握ると水栓から水が噴き出す。電気がストップしてもお尻は気持ちいいが、わざわざ洗面の蛇口まで手を伸ばすのは面倒。日本のウォシュレットと違う。朝6時半にテレビが勝手につき、どンドン音が大きくなる。モーニングコールがテレビにプログラミングされている！さすがITの国。朝食はビュッフェ。ハム、ソーセージ、サラミ、チーズと肉の種類が多いが、オムレツや目玉焼きを作ってくれるコックは不在で、フワフワしただしの利かない卵焼があるだけだ。パプリカとトマト、胡瓜の薄切りに胡瓜のピクルスと野菜は少ないが、鯿の他に鰯らしき魚の酢漬も。デザートは西瓜。

食後まずマーケットホールへ。人口21万のフィンランド第二の町の胃袋。9時では開店していない店もあるがスイーツとコーヒー、新聞が好きなフィンランド人でカフェは結構繁盛。因みに新聞は宅配で、日本に次ぐ購読率を誇るが、ネットとの関係でその運命は如何に？トナカイの頭の剥製を看板代わりにする肉屋では鳥、豚、牛の他に脂の少ないトナカイの赤身肉も。それらのソーセージや燻製なども売られ、豆や粉を売る店では挽かれて袋に入ったコーヒーも売られる。フィンランド人は平均一日8杯も飲むコーヒー好きだ。魚屋では生きたザリガニから鮭、鯿、鰯、岡山名物ママカリ様の鮮魚の他に干物、酢漬まで売られるが、魚の種類は日本の魚屋が上だ。玩具屋では世界のキティも笑顔を振り撒く。

八百屋ではライ麦パンを押し退け主食となった南米産世界のジャガイモも、小粒な割に大きな顔をしている。南米でインディオを滅ぼしかけた悪魔のスペインも、ヨーロッパでは救世主。金、銀、宝石、ジャガイモとトマト、トウモロコシを略奪者スペインがヨーロッパにもたらさなかったら、今のヨーロッパとその食生活はあったらどうか？トウモロコシが目につかないのは寒冷で育たないからか？ここは我が故郷白神よりさらに北の果て！

⑤ムーミン谷は谷！？

タンペレの町の一番の目玉はムーミン谷。21名(男は夫妻で同行の勝部君の他には新婚旅行の婿殿2人)の過半を占める若い女性の目当てはムーミンとカモメ食堂だ。カモメ食堂という映画の存在自体、ましてフィンランドが舞台の日本人主演の日本映画だということも知らなかった。ムーミンの存在は知っていたが、フィンランド生まれということ知らず、タンペレにムーミン谷があることも知らなかった。ムーミン谷はタンペレ郊外のどこかの谷一杯に展開するディズニーのようなテーマパークだと思ったのだが、ホテルからほど近い街のど真ん中の市立図書館の一階にさりげなくあった。

作者のトウベ・ヤンソンは社会主義ソ連とファシズムドイツに翻弄され悲惨な第二次世界大戦に巻き込まれる祖国を憂え、ムーミンにさりげなく戦争の悲惨さを訴えさせ、風刺とユーモアで戦争反対を叫んだ。小国フィンランドが大国スウェーデンとロシアに六百年以上も支配され、独立後も大国の間で申听、第二次大戦後は冷戦の谷間で「北欧の東欧」と呼ばれ、西側の一員ながら隣の大国ソ連の顔色を伺い、実質的にソ連に支配されているかのようにも見えながら、平和主義を掲げ、独立を維持、東西を取り持ったことに通じる。それを「フィンランド化」と揶揄する向きもあるが、高く評価していい。隣国ソ連へのフィンランドの対応は又、世界第二の経済力を原資に軍事力を強め、軍隊が発言権を増し、

「歴史的な領土の回復」を掲げ、遠く、西沙や南沙の島々の領有まで主張、膨張主義に転じたかの如き隣の大国、中国への対応でも学ぶべきものがある。大国に脅威を感じる周辺国を糾合、共同対処するのも一法だが。

第二次大戦中もソ連軍の侵入を国民の英雄的な戦いで退けたフィンランドだが、敗戦と共にソ連に領土の一部を割譲、三億ドルの賠償を課され、紙やパルプ、船舶や金属機械等の物品の供与を義務付けられた。だがフィンランドはそれを梃子に機械や造船産業を大きく成長させ、金属機械産業は、ノキアを代表とする情報通信産業が登場するまでは森林関連産業と共に戦後フィンランド経済を支えた。戦後の厳しい状況からの急速な復興という点で共通する日本とフィンランドだが、バブル経済崩壊からの立ち直りという点では明暗を分けた。フィンランドにとっては主要な貿易相手国ソ連の崩壊が重なり、一時失業率が20%を越すという、待ったなしの、後のない奈落の底に突き落とされたからだ。そこまで落ち込まなかった日本は遅々として経済が回復せず、茹でガエルのように緩やかに落ちていく。東日本大震災と原発事故という、待ったなしの危機からの復活のために、今、フィンランドから学ぶべきものは多い。

ノキアの急失速で心配なフィンランドだが、高度な教育と柔軟な社会構造、それを支える充実した社会福祉が、ノキアの復活を支えるか、第二、第三のノキアを生み出し、産業構造を高度化することで可能にするのではないか。素敵なムーミンの国を旅する者として、そうなることを期待したい。

⑥ムーミンの街は革命の街

タンペレ大聖堂を見学、次の目的地イッタラへ。ムーミンの街を出ようとする時にタンペレにはレーニン博物館があるとガイド。1905年12月タンペレの現在の労働者会館でポリシェビキの会議が行われ、民族自決主義者レーニンがフィンランド独立運動の推進を市民代表団に誓ったことを記念、労働者会館内にレーニン博物館が開設された。この時レーニンとスターリンが初めて会った。民族自決はポリシェビキの綱領だが、ロシアからの解放はフィンランドやポーランド等ロシア帝国への併合期間が短い地域に止まり、民族自決は徹底されず、1991年末のソビエト連邦の崩壊を待たなければならなかった。ロシアで未だに民族紛争が続くのは民族自決のプロセスが未完なことを示している。24年のレーニン死後、トロツキーとの権力闘争に勝利し、スターリンがソビエトの権力を握り、民族自決原則も大きくねじ曲げられた。ねじ曲がったままの民族自決綱領を受継いだのが中国だが、チベットやウイグル等の独立運動をどう解決するのか？その時中国はどうなるのか？

タンペレの街の北のナシ湖の水が急流タンメルコスキとなり、水位を18m下げ南のビュハ湖へ注ぐ。急流は水車を回し、水車は電気を起こす。タンペレには19世紀初頭、紡績業が起き、フィンランド最初の工業都市は「フィンランドのマンチェスター」と呼ばれ発展する。1917年レーニンの指導するポリシェビキは十月革命でケレンスキーの臨時政府を打倒、12月31日、フィンランド独立を承認。翌1918年1月首都ヘルシンキに革命政権が誕生。対するスヴィンフッド政権は東ボスニアのヴァーサを本拠とし、内戦が勃発。産業都市は又、労働者の街でもあり、左派政権の拠点となる。3月下旬から4月上旬にかけ、左派政権の拠点タンペレで赤衛軍と白衛軍が激突、市街戦は白衛軍の勝利に終わる。フィンランドでは独立戦争と解釈するが、新しい国家の誕生を巡り、自国民同士が互いに

血を流した内戦だ。ソビエト政府はロシアに続きヨーロッパ全土に革命が波及することを想定、フィンランド革命政権にも希望を託すが挫折。レーニン死後、世界革命路線から一国社会主義路線へと急旋回する。

IT 産業への構造転換とその隆盛により高度福祉社会を実現したフィンランドだが、雇用制度の柔軟化、複雑化と EU 域内からの移民はもとより、各国からの難民の流入により格差の拡大も進む。冷戦が終って国の垣根が低くなり、経済のグローバル化が進み資本主義的生産様式が今ようやく、世界全体を飲み込まんとする時、レーニンの時代とは様相を異にした「世界革命」の前夜にあると言えないだろうか？（続く）

◎「現下の経済・財政政策を考える」・・・東大三鷹クラブ第 100 回記念シンポジウム

1 月 17 日（火曜日 18 時開始）の三鷹クラブ定例会は、第 100 回となります。記念して「現下の経済・財政政策を考える」とのテーマの下に、通常の講演と趣向を変え、シンポジウム形式で、3 人の専門家を中心に、出席会員の皆様方と大いに語り合う場としたいと思います。まず、田村達也氏（(株) グローバル経営研究所代表取締役 昭和 32 年入寮）に問題提起をお願いし、そして、柳澤伯夫氏（元金融担当大臣 昭和 32 年入寮）、中前 忠氏（中前国際経済研究所代表 昭和 33 年入寮）のお 2 方に、それぞれのお立場から見解を述べていただきます。その後、出席者の皆様からご意見を頂戴します。3 氏とも学識、経験豊かな方ばかりで、今なお各方面で活躍中です。三鷹クラブでも、田村氏（第 44 回）、柳澤氏（第 34 回）、中前氏（第 21 回及び第 82 回）と、定例会で御講演済みです。

わが国経済は、およそ 20 年にわたって停滞傾向が続き、一方で、国の財政は年々悪化、国債の累積残高は 1,000 兆円に近い巨額に達しています。加えて、東日本大震災は、産業・経済・民生に甚大な傷跡を残し、復旧、復興のため少なくとも 2～3 年にわたって大幅な公的支出の追加が必要とされます。眼を海外に転じますと、EU 加盟国の一部の財政危機を引き金として、ヨーロッパはもとより、アメリカさらには日本を含む諸国に金融不安が拡大し、深刻な世界同時不況に陥ることも懸念されます。

こうした内外の厳しい情勢の下で、国の経済・財政政策のあり方については、極めて悩ましい選択を迫られており、しかも一步を誤れば、事態を更に悪化させる結果となりかねません。9 月に発足した野田内閣は、近い将来の増税の方向を示し、財政再建を優先させる色合いを濃くしております。これに対しては、与党内でも強い反論があり、国会の場で、あるいは各界の識者の間でも意見の分かれるところです。

今回は、この難問を正面から取上げ、限られた時間ですが、活発に、高度な議論が展開されることを期待しています。なお今回は、いつもより早い 18 時にシンポジウムを開始し、終了後 20 時頃から、100 回を記念するささやかなパーティー（立食形式）を予定しておりますので、時間厳守の上、多くの皆様の参加をお願いしたいと存じます。（平賀記）

日時：平成 24 年 1 月 17 日（火） 18 時～21 時（記念パーティー：20 時～21 時）

場所：学士会館本館 202 号室（千代田区神田錦町 3-28 TEL 03-3292-5931）

会費：5000 円（会場費、パーティー費、通信費など）

定員：120 名（先着順：定員を超えない限り特に連絡は致しません）

申込先：平賀・干場 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182

(有)ティエフネットワーク Email: tfn-hoshiha@blue.ocn.ne.jp

◎ハロウィーンと世代をつなぐ帰国歓迎会

10月29日(土)、三鷹寮のハロウィーンパーティーは皆思い思いに仮装して盛り上がる。パリの女の子が一番の盛り上げ役で最後は踊ってフィナーレ。新寮開寮の時にビクターの先輩が寄付してくれた業務用カラオケセットが未だに大活躍。終わって華屋与平衛へ。今回は一人タニマチ。前回と同じくらいの人数で、注意した甲斐があったか？一気飲みもなかったが、理解し合うにはたまには馬鹿になって胸襟を開くことも必要だ。若者の国際交流、相互理解に貢献出来たとすれば嬉しい。

11時半にオーダーストップ。残り物を片付けるまで飲んでろと若者を残しタクシーに。三鷹 12時ジャストの各停で東京駅へ。タクシー拾い1時に帰宅。翌日は6時半起き、9時ちょっとスタートと勘違い。7時半過ぎに車で家を出、「専属歌手」の舟木一夫の歌を気持ちよく聴きながら走っていると、干場さん今Where?スタートは8時41分ですよと電話。寝不足と宿酔いにも関わらずスコアは53、55と辛うじて100台キープ。

翌週●事務所で、アメリカ留学帰りの法学部三年の宮本君の帰国歓迎コンパ。最初5人ということで、出来合いのオデンをスーパーで買って温め、Lサイズのピザを2枚と寿司を十人前注文、おまけの稲荷とネギトロ巻きも三人前付き、取り過ぎたと思ったのだが、結局十人まで増えて、どうにか食べ切り、無事終了、08年入寮生から11年入寮生まで、年代の橋渡しも。モルガン・スタンレーにアナリストで就職が決まっている法学部四年生の牧野君、ジュピターテレコムに入る文学部の竹村さんは遅れて来る。社会に出てからも横の繋がりを維持、縦のネットワークも広げ、グローバルに展開、三鷹クラブのネットワークをパワーアップして、社会により貢献するために、宿舎生世代中心に三鷹クラブのバージョンアップも考えたい。参加者は柳昭和也(2010年入寮・理I・郡山)・石田翔太郎(2010年・理I・尾道北)・伊藤拓也(2010年・理II・清教学園)・廣瀬直紀(2009年・文III・宇都宮)・宮本洋之(2008年・文I・洛南)・竹山美奈子(2008年・文III・甲南)・野村将揮(2009年・文I・高岡)・楨野尚(2008年・文I・岡山朝日)・兼子健太郎(2011年・理I・下関西)・實川節朗(2008年・文III・白陵)

◎心にも「革命」を！

ハロウィーン翌週の土曜日夕方、三鷹寮近くに住む一年先輩の辰さんのお宅で寮生と一杯。有楽町の交通会館で八森名物、鱈の飯寿司2パックといぶりがっこ、秋田の新政の純米酒を買う。一年生中心に寮生13人と辰夫妻、順繰りに自己紹介と進路、近況を報告。フィリピン、フィンランドにチャイニーズの学生二人と国際色も豊か。

20年前ミサワホームのリフォーム子会社就職中に、秋田杉のプレカット材を取り寄せ作った辰邸が健在なのも嬉しい。一階には窓を大きく取り開放的な浴室・洗面・トイレと2寝室、二階のキッチンとダイニング・リビングは階段室を中心に回遊出来、収納階段を登ると辰先輩の書斎のロフト。リビングでは北欧製の頑丈な黒塗の暖炉がどっしり構える。

ミサワホームは木質パネル工法のプレハブ住宅メーカーだが、子会社では木造軸組の在来工法、しかも大工さんの手作業で新築住宅をこっそり建てていた。それなら工場では柱、梁等の部材を加工、現場で組み立てる工業化工法で一括りにして、商品の幅を広げればい

いと、ミサワホームグループの朝会で提案、物議を醸した。秋田の藤里町の藤本木材と組んだ産直・故郷振興「革命」の試みは転職で四棟だけで終わったが、いずれバイオマスプラスチックで建材も作り、その建材で家丸ごと一戸を建て、「革命」を起こせないか？

◎GALA 湯沢のリフト券百枚！

加藤八峰町長と JR 東日本の事業創造本部に故郷製品の営業に伺った際、湯沢地域振興担当も兼ねる部長に、留学生をスキーに連れて行くとても喜ぶんですよと話し、GALA 湯沢のリフト券 20 枚頂いたが、宅急便で更に百枚届く。四駆の 7 人乗りオデッセイで一回 6 人連れて行くとして 20 回、毎週行かなければ！？ウェアやスキー道具、スクールはどうする？一人では手に負えない。お手伝い出来る方がいましたら、お願いします！

東大では年一回、スキー部の協力を得て、柵池のスキー部の寮を利用、留学生を対象にスキー合宿をして抽選になるほどの人気だ。大学と JR に改めて相談、両者を上手くマッチング、留学生にスキーを楽しんで貰い、日本に更に親しみを持って欲しいし、大好きなスキーのファンも増やしたい！是非、ご協力をお願い致します！再見！